

第九話

弁慶の足跡と

牛若丸の下駄の齒の跡



松島に仁王島におうじまってあるでしょう。お人形さんのような恰好した島ね。

あの島と同じような恰好した島があったんですよ、わたしの子ども時分にね。

それ、都島みやこじまって呼んでいたもんだ。

その島の頭のとっぺんにね、「弁慶の足跡」っていうのがあったんですよ。

足で踏んだような跡でね、ちゃんと五本の指までついていたね。石がへこんでいたの。

よく、その上さ登って行って見たもんだよ。

それから、こっちの方にね、馬の背中になってるようなどこがあるのさ。そこに、「牛若丸の足駄の齒の跡」もあったね。

いくら探しても、いまではもう見つからなくなっちゃったよ。消えたんだね。